

地域課題を地域で解決するための勉強会

JICHIKAI

Jichirengoukai & Yoshikawashi



namarin
yoshikawa city

Contents 目次

- 2～3 …… 全体会
- 4～7 …… 分科会 多文化共生
- 8～9 …… 分科会 高齢者支援
- 10～13 …… 分科会 地域減災
- 14～17 …… 分科会 地域減災・中曽根小6自治会
- 18～20 …… 分科会 自治会課題
- 21 …… おわりに

自治会に深く関わり10年が経ちます。23年間自治会長やっている大先輩もいますので、まだまだ若輩者ではありますが30代という脂がのっている働き盛りの10年を自治会に捧げた男はそうそういないのではないのでしょうか。

私にも仕事があり家族がいます。10年前、吉川市に引っ越してきてからすぐにまわってきた自治会の班長。子どもたちのためにもご近所付き合いはしっかりしておこうという気持ちでとにかく1年だけは我慢しようと引き受けました。

任期を終えた1年後、いろいろあり自治会長になりました。途中、地区の初代連合会長に就任し、その後、吉川市の自治連合会長となりました。自分が住む地域の自治会長だけでも大変なので連合の会長などもつてのほかと思っていたのですが、同じ境遇の会長たちと話すことで、悩みが解決することもあり、気持ちが楽になりました。

そして、地域によって課題は違うものの、どの地域にもその地域をよくしていきたいと夜な夜な会議を重ねている自治会長の皆様がいることを知りその姿に感動しました。安心して安全な当たり前の生活は誰かの思いと行動の上に成り立っていることを再認識しました。

そんな会長たちがあつまる自治連合会の会議です。自然と地域の課題は地域で解決していこうという方向に進んでいきました。行政の協力もあり、たまたま私の代から取り組みを開始することができましたが、この流れは必然なんだと思います。

勉強会はかれこれ3年が経ちましたが、今でも地域の課題や問題を先送りにせず、市の職員さんと共に今できることを今生きる人たちがやり続けています。

この取り組みを私の代はもちろんのこと、将来を担っていく子どもたちの世代までしっかりと引き継いでいくことこそが、今や私の使命だと思っています。

これからの時代は「自治会」の枠を越えた組織が必要になってくるでしょう。今一度、自治会の在り方を考えていくことと共に子どもたちの明るい未来のために、良きふるさとをこれからも地域の皆様とつくりたいと思います。

吉川市自治連合会 会長 石井 亮英



吉川市の「まちづくり」の目標は「市民一人ひとりの幸福実感の向上」。しかし、それは非常に難しいチャレンジです。なぜなら、「幸福」の形は千差万別であり、また他者(行政)に与えられものでもなく、一人ひとりが主体的に活動する中で手にし、感じるものだからです。

そこで、吉川市では、「市民シンクタンク制度」により市民からの「政策提言」を可能にし、「みらいステップアップ助成金制度」により市民による自主的な活動を支援し、また、「市長キャラバン」「どこでも市長」「市長とランチミーティング」などを開催する中で、市民の意見を事業に活かし、さらに、市民が吉川市の情報を発信する「市政動画」や「ラジオ番組」事業を展開するなど、しっかりと「市民と行政の共働*」の体制を構築し、市民が主体的に参画する「まちづくり」を進めてきました。

吉川市のそうした取り組みは全国的に評価され、2018年には「マニフェスト大賞優秀賞」を受賞。そして、さらなる「市民と行政の共働」を目指し、2019年に立ち上げたのが、この「地域課題を地域で解決するための勉強会」です。

当勉強会は、武蔵大学の粉川一郎先生、獨協大学の石井亮英自治連合会会長を中心に、自治会、民生委員・児童委員協議会、国際友好協会、消防団員、女性減災リーダー、学識経験者、社会福祉協議会、市内在住大学生、市内在住外国人など、様々な分野の方々が参加くださいました。

当勉強会を通して、地域の課題を認識し、解決策を検討・実践する皆さんの姿は、まさに「市民による主体的なまちづくり」であり、そうした取り組みが吉川市全体に広がることで、吉川市の目標である「市民一人ひとりの幸福実感の向上」は成し遂げられる、そう感じています。

今後も、当勉強会において、多くの皆さんと共に、「市民と行政の共働」を進め、「幸福実感に満ち、持続可能な、価値ある未来」を吉川市に創り出してゆきたいと思えます。

※共働 市民と行政が課題を共有し、解決に向けて共に動くこと。市長として私が掲げる理念の一つ

吉川市長 中原 恵人



全体会

■勉強会のきっかけ

近年、自治会では加入率の減少や災害対応・高齢者支援など、地域に密接した存在であるからこそ抱える課題は多く、内容も多岐に渡ります。そこで、前年度の吉川市自治連合会の役員会において、「地域や自治会の課題やその解決策をもっと話し合いたい」という声が上がると同時に、「地域課題を地域住民が解決するための事業を」という市の思いがタイミングよく重なり、吉川市自治連合会と市が協働で、また、状況に応じて課題解決に関係する方々等も交え研究をしていくこととなりました。



獨協大の生徒達も議論に加わりました



4分科会の様子

地域課題を地域で解決するための勉強会

【第1部】協働について
 講師：武蔵大学社会学部メディア社会学科
 こがわ いちろう
 教授 粉川 一郎 氏
 <専門>NPO論、ソーシャルメディア論

【第2部】地域自治について
 講師：獨協大学法学部総合政策学科
 おおたに もとみち
 教授 大谷 基道 氏
 <専門>地方自治論、行政学



大谷基道教授による講義「地域自治について」



粉川一郎教授による講義「協働について」



「マニフェスト大賞」エリア選抜に認定されました。
 「あしたのまち・くらしづくり活動賞「振興奨励賞」を受賞しました。



全体会の会場の様子

令和元年度

初めての試みであることから、まず初めに参加者全員が同じ方向を目指すため、そして基本を押さえていただくために、学識経験者2人から講義をしていただきました。(参加数53名)

第1部 「協働について」
 講師：武蔵大学社会学部メディア社会学科
 粉川 一郎 教授
 第2部 「地域自治について」
 講師：獨協大学法学部総合政策学科
 大谷基道 教授

各1時間の講義後、講評のなかで自治会長から、「地域ことは、地域で良くしていく事が大事であることに、気づきました」という意見をいただきました。

全体会の最後に参加者が「どんな分野に興味があるのか」を調査するために、アンケートを実施しました。アンケート結果から、①地域減災班、②多文化共生班、③自治会課題班、④高齢者支援班の4つの分科会に分かれましたので、各分科会で議論していくこととしました。

全体会
 日時：令和元年6月21日(金) 17時～

成果 『外国人向け支援制度と
外国語が話せるお店マップ』の作成



「外国人向け支援制度と外国語が話せるお店マップ」を設置していただきました。

市内にベトナム人と中国人が特に多く住む地域があり、そのような地域で多文化共生についてできることを検討することを目的に、「コミュニケーションの場」と「ネットワーク」作りについて研究しています。現在、コロナ禍で人を集めたイベントの開催は難しいため、『外国人向け支援制度と外国語が話せるお店マップ』を作成し、英語、中国語、韓国語、ベトナム語に翻訳をして公共施設や協力店舗へチラシを設置しました。効果としては、外国人が困った時の生活支援とお店への売上貢献、さらには、外国人同士のコミュニティ形成へとつながればと考えています。



「外国人向け支援制度と外国語が話せるお店マップ」(両面)ベトナム語



分科会

多文化共生

「多文化共生」班では、市内のなかで外国人が多く住む地域があり、そのような地域で多文化共生について地域でできることを検討・実践することを目標としています。メンバーは、自治会長をはじめ、市内にお住まいの外国人、外国人に関係する団体の方、大学生など多岐に渡ります。



多文化共生班の高崎リーダー



令和2年度には市役所内でZoomによる会議を開催しました。



川口市芝園団地自治会事務局長による講義。



市内にお住まいの外国人の方も参加してくれました。

令和2年度

第4回分科会

日時：令和2年1月15日(水) 18時
内容：今年度のとめと報告会について、来年度の方針を検討。

令和2年度は、多文化共生の「コミュニケーションの場」と「ネットワーク」作りについて研究していきなかに、市内で外国語が話せるお店の紹介と日本の生活に困っている方への相談窓口などを併せて掲載したチラシを作成し、協力店へ配布、設置していただきました。これにより、外国人同士のコミュニティの形成、日本人と外国人の交流、さらには、外国人が困った時の生活支援とお店への売上貢献へとつながればと考えています。

第1回分科会

日時：令和2年10月12日(月) 18時
内容：外国語が話せるお店の紹介と日本の生活に困っている方への相談窓口などを併せて掲載した「チラシ」を作成し、協力店へ設置のお願いをする事を決定。

第2回分科会

日時：令和2年11月20日(金) 18時
内容：チラシの掲載内容、協力を依頼するお店の洗い出し、翻訳する言語を決定。

令和元年度

第1回分科会

日時：令和元年7月29日(月) 18時
内容：地域の多文化共生に係る新たな取り組みとして、地域住民が抱えている課題を整理し、地域でできることを検討。

第2回分科会

日時：令和元年10月3日(木) 18時
内容：①DVD鑑賞「外国人と人権(家庭・地域で見られる偏見や差別)」
②講義「吉川市の取り組みについて」
説明 市民参加推進課
・日本語教室、多文化共生講師派遣事業等

第3回分科会

日時：令和元年11月14日(木) 18時30分
内容：先進的な自治会や自治体の取り組みを調査・研究。
①事例紹介 先進自治会(吉川団地自治会、育まち自治会等)
②講義「多文化共生の取り組みについて」
講師 川口市芝園団地自治会
事務局長 岡崎 広樹氏

令和元年度は、外国人や外国人を取り巻く地域住民が日常生活で抱えている課題を整理し、住民の約半数が中国人という埼玉県川口市の芝園団地の取組みを調査・研究するなど、4回の分科会を重ねました。



分科会

多文化共生



成果

『自治会加入促進チラシの多言語化』の作成



多言語化した自治会加入促進チラシの一例(中国語)
 ※このチラシはP.19の自治会課題班で作成したものを多言語化したものです。
 市民課窓口で配布。市HPからもご覧いただけます。

アンケート(韓国語)



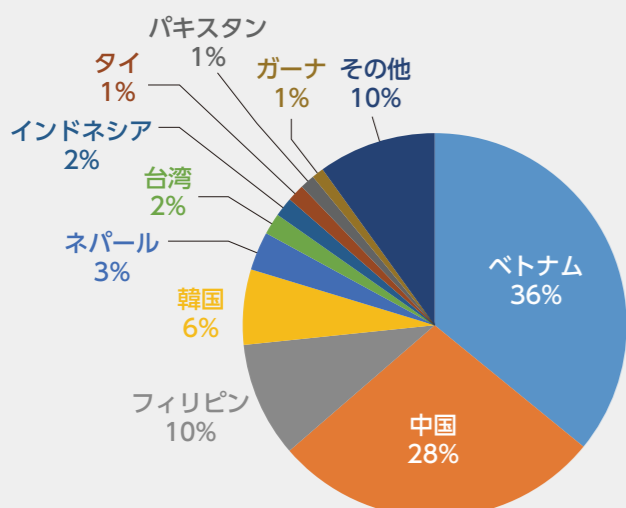
外国人住民が無料で日本語を学べる「日本語教室」でも外国人の方にアンケートにご協力いただきました。



市内の外国人が働く企業や飲食店などに出向き、外国人の方向けのアンケートをお願いしました!!



令和3年度



国籍	人数
1	ベトナム 640
2	中国 495
3	フィリピン 173
4	韓国 113
5	ネパール 58
6	台湾 32
7	インドネシア 29
8	タイ 26
9	パキスタン 22
10	ガーナ 18
11	その他 177
合計	1,783

国籍別在住者数 (R4.1.1 現在)



令和3年度は、多文化共生の「コミュニケーションの場」と「ネットワーク」作りについて研究していくなかで、令和2年度より続く、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面でのイベント開催は困難なため、当事者の外国人の意見・情報を集めることとし、アンケート調査を実施しました。

第1回分科会
 日時：令和3年7月28日(水) 18時～
 内容：①「自治会課題班」で作成した自治会加入促進チラシを多言語化(英語・中国語・韓国語・ベトナム語・やさしい日本語)することを決定。

②外国人住民に対し、自治会や生活の困りごと等に関するアンケートを実施することを決定。

第2回分科会
 日時：令和3年10月13日(水) 18時～
 内容：①アンケートの内容(質問事項、多言語化)について。
 ②アンケートの配布の仕方について。
 ↓いただいた意見を反映し、12月上旬にアンケートを配布し、1月上旬に回収・集計。

配布先

- ・ 外国語が話せるお店マップ協力店
- ・ 外国人雇用企業
- ・ 教会
- ・ 日本語教室参加者
- ・ 吉川市国際友好協会に配布協力等

高齢者支援

「高齢者支援一班では、地域において高齢者の比率が高まるなか、地域でできる移動支援、買い物支援等の高齢者の困り事を検討・実践することを目標としています。この分科会は、自治会長をはじめ、市内にお住まいの大学生、社会福祉協議会の職員もメンバーとなっています。」



高齢者支援班の高橋リーダー



●「現在困っていることはありますか」の問いに対する回答 ※全自治会とも「ない」が最多であった。「ない」を除く上位3つ。

	1位	2位	3位
三輪組自治会	庭の手入れ	食事の準備、通院、移動手段、修理・電球交換、話し相手	_____
平沼野尻自治会	通院	庭の手入れ	ゴミ出し
吉川団地自治会	買い物	修理・電球交換	ゴミ出し、通院
ネオポリス自治会	修理・電球交換	庭の手入れ	地域行事への参加
自治会たんぼぼ	買い物	ゴミ出し	移動手段
道庭自治会	移動手段	庭の手入れ	修理・電球交換



分科会には大学生も参加してくれました。



令和元年度

令和元年度は、「高齢者の困り事支援」を行う上で、どんな事に困っているのか？どんな仕組みがあると助かるのか？を議論した結果、市民のニーズと課題がどこにあるのかを把握するため、アンケート調査を実施することとなりました。

第1回分科会

日時：令和元年7月29日（月）18時
内容：テーマを決定するための意見交換。テーマを「移動支援への取り組み（買い物支援等もふまえて）」に決定。

第2回分科会

日時：令和元年8月31日（土）15時
内容：①課題の抽出（実際に困っている人はどれだけのいるか）
②地域の理想像について（どのような地域だったか理想か）
移動支援を行うために、地域にどんな必要があるのか、アンケート調査を行うことに決定。

第3回分科会

日時：令和元年9月30日（月）15時
内容：アンケート案の確認。

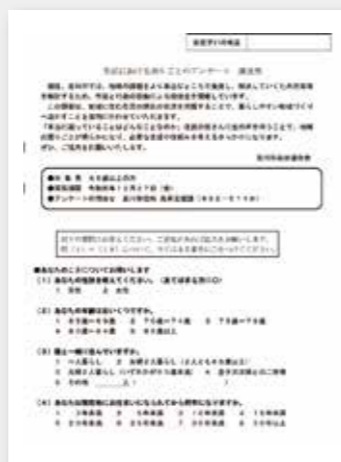
第4回分科会

日時：令和元年11月27日（水）15時
内容：①アンケートの各自治会実施状況（報告）について

②他市の事例紹介 「所沢ネオポリス買い物支援隊、NPO法人街のお助け隊コンセルジュの有償ボランティアによる困りごと解決の仕組み」
説明 社会福祉協議会

第5回分科会

日時：令和2年1月16日（木）15時
内容：アンケート集計結果の報告



令和2年度

令和2年度は、地域で既に取り組んでいる事業と市役所長寿支援課で取り組んでいる「地域支え合い協議会」について説明がありました。今後は、長寿支援課と共に、「高齢者の困り事」の必要な支援や仕組みについて引き続き検討していくこととなりました。

第1回分科会

日時：令和2年8月5日（水）15時
内容：①地域で取り組んでいる高齢者事業について
②講義 「地域支え合い協議会」について
説明 長寿支援課

地域減災

「地域減災」班では、理想的な避難所マニュアルの作成を想定し、小学校区単位での地域で新たな組織作りを検討・実践することを目標としています。メンバーは、自治会長をはじめ、民生委員、女性減災リーダー、自主防災組織連絡協議会の構成員、有識者など多岐に渡ります。



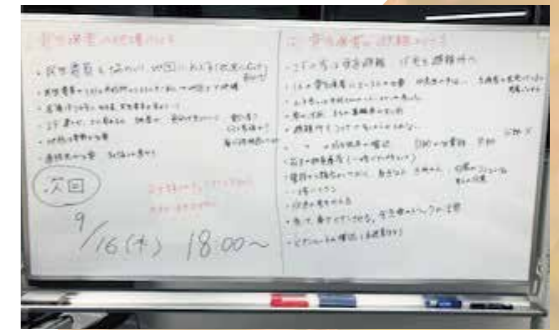
地域減災分科会の戸張リーダー



市有バスに乗って鶴ヶ島市を視察しました。



埼玉県鶴ヶ島市第二小学校地域支え合い協議会への視察



議論した内容をホワイトボードに記入

令和元年度は、有識者による講義や埼玉県鶴ヶ島市の鶴ヶ島市第二小学校区地域支え合い協議会の先進地視察を行うなど、4回の分科会を経て、「地域減災のための新たな組織づくりと活動」によるモデル地区を選定しました。

第1回分科会

日時：令和元年7月29日（月）18時～
内容：理想的な避難所マニュアルの作成を想定し、地域でできることを検討。

第2回分科会

日時：令和元年10月3日（月）18時～
内容：①講義「地域防災の基礎、吉川市の現状について」
説明 危機管理課
②講義「近隣、先進地事例について」
講師 宮城学院女子大学大学院講師 浅野富美枝氏
・避難所運営委員会について（さいたま市、千葉市の事例）

第3回分科会

日時：令和元年11月8日（木）11時30分～
内容：先進地視察「埼玉県鶴ヶ島市第二小学校区地域支え合い協議会」
行政と協働で防災活動に取り組みことをきっかけに、小学校区を単位とした避難所運営のための組織を立ち上げ、その後、地域助け合い協議会を設立。

第4回分科会

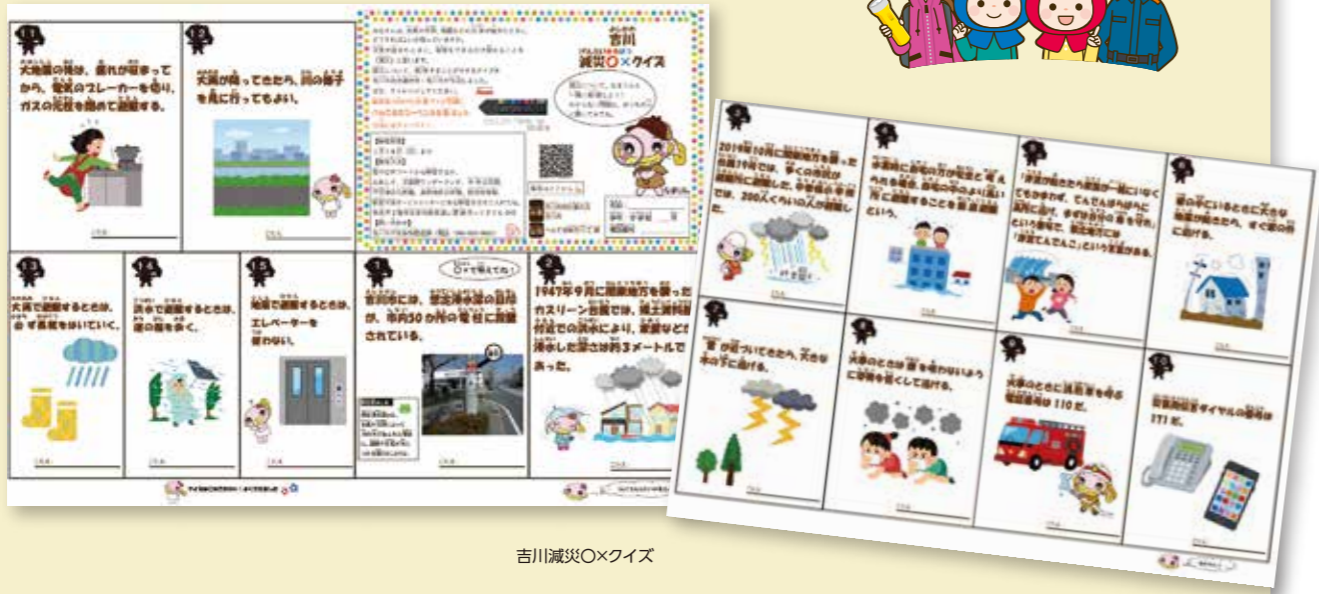
日時：令和元年11月21日（木）18時～
内容：①「中曽根小学校減災プロジェクトの報告」
減災訓練をやってみて、今後1回は実施し、出てきた課題を改善していくべきと意見あり。
②吉川市で今後進めるべきことを議論、取りまとめ。
③減災を切り口とした新たな組織のモデル地区を決定
↓「中曽根小学校区」で新たな組織「減災まちづくり協議会」設立について研究していく。



イメージ



「要支援者班」報告書



吉川減災〇×クイズ



地域減災



「楽しみながら学ぶ減災」班



ぺんてる株式会社より、カラーペン36色セットをご協賛いただきました。



「要支援者の対応」班

令和2年度

令和元年度に議論した新たな組織「減災まちづくり協議会」設立については、「中曽根6自治会班」で議論していくこととなりました。

当分科会の令和2年度は、取り組むテーマとして「要支援者の対応」「楽しみながら学ぶ減災」の2つのグループに分かれて議論を行いました。

第1回分科会

日時：令和2年10月14日（水）18時～
 内容：「災害時における地域のあり方」について、今年度議論する研究テーマを2つ選定。（要支援者の対応）、「楽しみながら学ぶ減災」

第2回分科会

日時：令和2年11月27日（金）18時～
 内容：テーマごとのグループに分かれて、課題と地域のできる解決策を検討。

令和3年度

令和3年度は、「要支援者の対応」「楽しみながら学ぶ減災」の2つのグループに分かれて議論を行い、「要支援者の対応」班では、災害時において高齢者や障がいをお持ちの方を災害から守るための議論を行い、報告書を作成しました。また、「楽しみながら学ぶ減災」班では、市内小学生を対象とした、「吉川減災〇×クイズ」を実施しました。

第1回分科会

日時：令和3年7月27日（火）18時～
 内容：グループによる議論

- (1) 要支援者の把握の仕方について
- (2) 要支援者の避難の仕方について
- (3) 楽しみながら学ぶ減災
 - ・市内120か所の電柱に付けられた最大想定浸水深の目印を、子どもたちに探してもらった。
 - ・減災クイズを小学生向けに作成し、子どもたちの減災意識を高める。

第2回分科会

日時：令和3年9月16日（木）18時～
 内容：グループによる議論

- (1) 要支援者の把握の仕方について
- (2) 要支援者の避難の仕方について
- (3) 楽しみながら学ぶ減災
 - ・小学生向け減災クイズのみを実施することを決定。冬休みに実施し子どもの減災意識を高める。

第3回分科会

日時：令和3年11月11日（木）18時～
 内容：①報告書発表

- (1) 「要支援者の対応のための報告書」発表
- (2) 楽しみながら学ぶ減災
 - ・市内小学生を対象とした「吉川減災〇×クイズ」を作成。
 - ・12月上旬に各小学校および市内公共施設に配布し、冬休み期間に実施。プレゼントとしてぺんてる株式会社より、カラーペン36色セットを10個ご協賛いただいた。

地域減災

中曽根小6自治会

令和元年度の「地域減災班」の流れ（「地域減災のための新たな組織づくりと活動」によるモデル地区を選定）を組み、令和2年度より、地域減災班のモデル地区として当分科会が立ち上がりました。メンバーは、中曽根小学校地区の6自治会となっています。



地域減災分科会の戸張リーダー



現場確認後の小学校内での会議



現場確認の様子



ミーティング



小学校の開錠



周辺の安全確認



スツール型トイレの前で議論



防災倉庫の確認

令和2年度

令和2年度は、いざという時に備えて日頃から中曽根小学校地区の6自治会で協力して、年1回の減災訓練を実施するための協議体として実施していくことで「意思統一」を図りました。

第1回分科会

日時：令和2年8月24日（月）、18時～
内容：中曽根小学校地区の減災まちづくりについて
中曽根小学校減災プロジェクトの経験から、6自治会で協力して地域減災に取り組むことでの意思統一を図る。

第2回分科会

日時：令和2年10月7日（水）18時～
内容：①講座「地域をリセット」地域をどうするか考える②講座「
講師 武蔵大学教授 粉川二郎氏
②事業内容、減災訓練の検討

第3回分科会

日時：令和2年10月22日（木）15時～
内容：中曽根小学校内の現場確認
避難所の開設方法、防災倉庫の確認等

第4回分科会

日時：令和2年11月12日（木）18時～
内容：①現場確認（10月22日）の振り返りと令和3年度開催に向けて
②組織の在り方について

第5回分科会

日時：令和2年12月23日（水）18時～
内容：1月開催予定の現場確認事項の共有



イメージ



11月27日
中曽根小6自治会合同
減災プロジェクトX

議題・体験内容

大田町会・高宮町会
①防災倉庫の確認 (9:10~9:40)
②ワンタッチ間仕切りと簡易ベッド組立て (9:40~10:10)
③トイレ、トイレ用テント組立て (10:10~10:40)

高久1区自治会・高久2区自治会
①ワンタッチ間仕切りと簡易ベッド組立て (9:10~9:40)
②トイレ、トイレ用テント組立て (9:40~10:10)
③防災倉庫の確認 (10:10~10:40)

中曽根自治会・道産自治会
①トイレ、トイレ用テント組立て (9:10~9:40)
②防災倉庫の確認 (9:40~10:10)
③ワンタッチ間仕切りと簡易ベッド組立て (10:10~10:40)

日時 令和3年11月27日(土)
午前9時~11時まで(雨天決行)
会場 中曽根小学校
持ち物 上履き

「中曽根小6自治会合同 減災プロジェクトX」のポスター

「中曽根小6自治会合同 減災プロジェクトX」のしおり

1. 趣 旨 中曽根小6自治会合同 減災プロジェクト
2. 趣 旨 地震や風水害などの自然災害に備え、被災時を乗り越えて地域の復興を遂げる。避難所確保のために自治体的な取組を進めることを目的とする。
3. 開催日時 令和3年11月27日(土) 9:10~11:40(雨天決行)
4. 会 場 中曽根小学校 中曽根小学校2号館 4階 404室(404室) 3051
5. 主 催 大田町会 高宮町会 高久1区自治会 高久2区自治会 中曽根自治会 道産自治会
6. 参加人数 30人(自治会5人) ※自治会以外の参加者は事前申し込みが必要(申し込みは自治会事務局へ)
7. 体験内容 ①防災倉庫の確認 ②ワンタッチ間仕切りと簡易ベッド組立て ③トイレ、トイレ用テント組立て ※トイレ、トイレ用テント組立ては、事前に申し込みが必要(申し込みは自治会事務局へ)
8. 持ち物 上履き(持参推奨)
9. 備忘録の作成について 備忘録は、このプロジェクトの進捗状況や課題をまとめるための資料として、自治会事務局へ提出していただく。提出先は、中曽根小6自治会合同 減災プロジェクト事務局(〒950-0001 中曽根小学校2号館404室)へ提出していただく。

「中曽根小6自治会合同 減災プロジェクトX」のしおり



現場確認の様子



11月の減災訓練に向けて、体育館で議論中



体育館の開錠の仕方を学ぶメンバー



小学校の教室で避難室の確認



小学校の昇降口で受付手順の確認

「減災プロジェクトX」の様子



受付での検温



トイレ用テントの組み立て
※QRコードをスマートフォンで読み込むと動画が見られます。



ベンチの蓋を開けてトイレの確認
※QRコードをスマートフォンで読み込むと動画が見られます。



ワンタッチ間仕切りと簡易ベッドの組み立て
※QRコードをスマートフォンで読み込むと動画が見られます。



防災倉庫内の確認



ワンタッチ間仕切りの組み立て

分科会

地域減災

中曽根小6自治会



展示物

令和3年度

令和3年度は、中曽根小学校で現場確認を行い、地域主導による「中曽根小6自治会合同 減災プロジェクトX」を開催しました。また、民生委員やPTAなどと共に関わり、「中曽根小学校区地域まちづくり協議会」設立に向けて、今後、議論を重ねていくことについて分科会内で合意形成を図りました。

第1回分科会

日時：令和3年4月15日(木) 18時～
内容：①5月開催の現場確認について
②11月開催の減災訓練について
③議義「災害時避難行動要支援者について」説明 危機管理課

第2回分科会

日時：令和3年5月19日(水) 14時30分～
内容：中曽根小学校内の現場確認
備品確認、組み立て使用訓練、避難場所の居住空間の確認。

第3回分科会

日時：令和3年6月22日(火) 14時30分～
内容：中曽根小学校内の現場確認
鍵開け(職員室入口、防災倉庫の備品確認、体育館横のトイレの設置、トイレ用テントの組み立て。

第4回分科会

日時：令和3年7月26日(月) 14時30分～
内容：中曽根小学校内の現場確認
コロナ禍での避難所受付手順の確認
避難室の確認(区画、場所)

第5回分科会

日時：令和3年8月31日(火) 14時30分～
内容：11月27日開催の「中曽根小6自治会合同 減災プロジェクトX」の内容を決定。

第6回分科会

日時：令和3年10月26日(火) 18時30分～
内容：①「中曽根6自治会合同 減災プロジェクトX」について。
②地域まちづくり協議会について
地域まちづくり協議会立ち上げに向けて
↓分科会内で合意形成を図る。

第7回分科会

日時：令和3年11月27日(土) 9時～
内容：「中曽根小6自治会合同 減災プロジェクトX」参加人数30人(5自治会×6人)
①防災倉庫の確認
②ワンタッチ間仕切りと簡易ベッドの組み立て
③トイレ、トイレ用テントの組み立て

第8回分科会

日時：令和3年12月16日(木) 18時30分
内容：①「中曽根小6自治会合同 減災プロジェクトX」の振り返り。
②(仮称)中曽根小学校区地域まちづくり協議会について。
↓(仮称)中曽根小学校区地域まちづくり協議会設立準備会を2月以降に開催していただく合意。

自治会課題

「自治会課題」班では、日頃の自治会活動のなかで抱えている課題の洗い出しを行い、その解決策を検討・実践することを目標としています。メンバーは、自治会長をはじめ、市内にお住まいの大学生などです。



自治会課題分科会(R.1、2)の多々良リーダー



令和元年度

令和元年度は、「自治会加入」と「役員」についてアンケートを実施しながら、主に3つの課題（①会員数の向上、②役員不足解消・負担軽減、③自治会館・備品相互貸借）をテーマとして、課題に対する解決策を研究してきました。

その結果、会員数の向上については、大学生の若い世代の視点も踏まえて「自治会加入促進チラシ」の新調を行い、さらには、各自治会で備品などの相互貸し借りが行えるように「自治会館・備品の相互貸借リスト」を作成しました。

第1回分科会

日時：令和元年7月20日（月）18時～
内容：①分科会のテーマ決め
「会員数向上（脱退者減少）」
「役員不足解消・負担軽減」
「自治会館・備品の相互貸借」に決定。

②アンケートの実施について

第2回分科会

日時：令和元年9月9日（月）18時～
内容：アンケート結果をもとに、意見交換
①会員数向上（脱退者減少）
↓「自治会うちなあに？」といった冊子を作るための助になるようにメリット・デメリットの洗い出し。

②役員不足解消・負担軽減
↓役員のみならず手不足の改善
③自治会館・備品の相互貸借
↓全95自治会に「自治会館・備品相互貸借リスト」を配布。2月の報告会で全自治会へ配布。

第3回分科会

日時：令和元年11月26日（月）18時～
内容：①会員数向上（脱退者減少）
「自治会加入促進チラシ」の作成について
②役員不足解消・負担軽減
③自治会館・備品の相互貸借

「自治会館・備品の相互貸借」に係るアンケート調査の結果、「自治会館・備品の相互貸借リスト」をまとめたので、2月の報告会で全自治会へ配布。

第4回分科会

日時：令和2年1月28日（火）18時～
内容：①勉強会報告会について
②「自治会加入促進チラシ」と「自治会館・備品の相互貸借リスト」の確認。

令和2年度

令和2年度は、自治会の現状と地域運営組織を構成する先進事例について学び、地域における自治会の在り方や課題解決に向けた今後の取り組みについて意見交換をしました。

第1回分科会

日時：令和2年11月4日（水）18時～
内容：①講義
「自治会の地域での在り方について」
「自治会課題解決に向けた今後の取組について」
説明 市民参加推進課

成果

①地元大学生との『自治会加入促進チラシ』作成



自治会に入らない理由として「活動内容がわからない」「メリットがない」といった声が多かったことから、まずは自治会を知ってもらうために『自治会加入促進チラシ』を新調することにしました。作成にあたっては地元の大学生が中心となり、若い世代の視点で市のキャラクター「なまりん」を豊富に盛り込み、手に取りやすいストーリー形式にしました。今回作成したチラシは、市内全域に配布するとともに、転入者などの未加入者への勧誘の際に積極的に活用しています。



②『自治会館・備品の相互貸借リスト』の作成

きっかけは「もったいない」でした。地域では様々なイベントを実施していますが、その際に使用する備品を独自で所有している自治会から、「年に1回しか使用しなくてももったいない。」という相談を受けました。そこで、自由に備品や自治会館の貸し借りを可能とした仕組みを整備するために各自治会で所有している備品等を一覧にしたリストをまとめ、全自治会へ配布しました。実際に活用した自治会からは「ポップコーン作り機を貸し出したところ、大変好評で来年もぜひ借りたいという声をいただきました。単なる貸し借りだけでなく、自治会同士の繋がりもできた。」という感想をいただき、自治会間の交流という観点でも有用であることを実感しました。



自治会課題

おわりに



獨協大学 大谷基道 教授

各分科会とも住民が主体的に参画する取り組みを着実に進めており、今後もさらなる展開が見込まれます。引き続き地域の課題解決に主体的に取り組み、将来的には地域のニーズに合致した施策を広く展開されるようになることを期待しております。



武蔵大学 粉川一郎 教授

自治会や町内会といった地縁団体の危機が語られ始めてからもうずいぶん時間が経ちました。しかしながら、多くの地域では十分な対応策が取れず、地域の繋がり維持が非常に難しくなっている現状があります。そこに、このコロナ禍で多くの地域活動が停止に追い込まれ、地域の抱える困難さはさらに増大している状況です。

こうした状況下で、吉川市自治連合会が中心となり自治会の方々が知恵を絞って、地域の持続性を担保する取り組みをスタートさせたことは大変心強い限りです。

多文化共生、高齢者支援、防災といった具体的な地域課題にフォーカスした取り組み、アンケート調査のような方法で正しい現状認識を共有していく姿勢、また、既存の自治会の枠組みにとらわれず、新たな地域組織の在り方を検討するという方向性、いずれも、今の日本の地域づくりに求められているものばかりです。

コロナ禍という厳しい状況下で、地域の人々が主体的に動き始め、行政がそれを支援する構造を作り出せたこの3年間は、持続可能な生活圏としての吉川を形作るうえで重要な意味を持つことでしょう。今後の取り組みにさらに期待したいと思います。



自治会課題分科会(R.3)の長谷川リーダー

令和3年度

令和3年度は、横須賀市の地域運営組織の取り組みについての事例を学び、今年度取り組むテーマを「自治会の枠を超えた、新たな地域コミュニティ」としました。吉川市ではこういった新たな地域コミュニティを形成していくことが望ましいかを議論し、モデル地区を選定しました。

第1回分科会

日時：令和3年6月14日（月）18時～
内容：①講義

「横須賀市 地域運営協議会の取り組み」
説明 市民参加推進課
「自治会の枠を超えた、新たな地域コミュニティ」というテーマで話し合いをしていくことを決定。

第2回分科会

日時：令和3年8月3日（火）18時～
内容：①講義

「地縁再生のためのアイデアミニ講座」
講師 武蔵大学教授 粉川一郎氏
②「自治会の枠を超えた、新たなコミュニティ」について
③アンケート実施について
※旭小学校PTA会長にご参加いただいた。

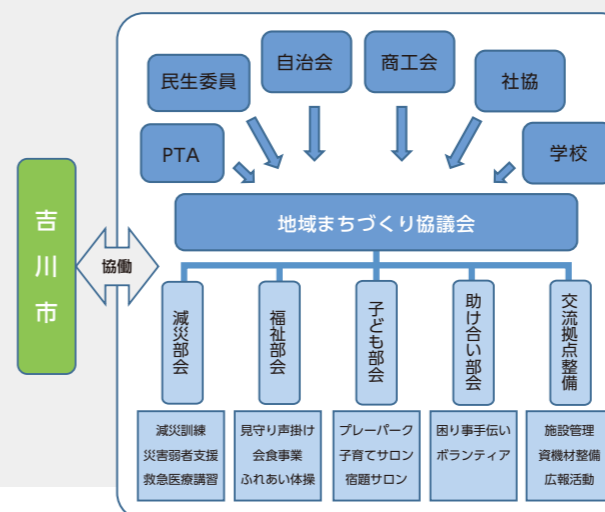
第3回分科会

日時：令和3年10月11日（月）18時～
内容：①「自治会の枠を超えた、新たなコミュニティ」について

・圏域 小学校区単位、自治連合会など
・加入団体 民生委員、PTA、学校、社会福祉協議会、商工会など
・期待される効果 地域の中での横の連携が生まれることにより、お互いの仕事を助け合うことができれば、地域全体の仕事を減らすことにつながる。

②アンケート結果について
③「自治会の枠を超えた、新たなコミュニティ」組織のモデル地区について
↓中曽根小学校区の6自治会に決定。

「地域まちづくり協議会」イメージ



第4回分科会

日時：令和3年11月29日（月）18時～
内容：①「地域課題を地域で解決するための勉強会 報告会」について

②モデル地区事業について
「中曽根小6自治会合同減災プロジェクト」





発行・編集 吉川市自治連合会・吉川市

発行日: 令和4年3月